

Title	フィリポヴィッチ氏 気賀勘重解説 経済政策後編上巻
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.3, No.5 (1910. 5) ,p.627(123)- 628(124)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100515-0123

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ものは自己周囲の關係に在り。然れども未だ自己の物質的實在以外を知らざるに於ては専ら事物に對する自己の關係を究むべし。是れ即ち兒童の職分なりやがて自己の道德的實在を感得するに及びては自己の人類に對する關係を追究すべし。是れを爲すは吾人が全生涯に於ける當然の本分にして此の時期より開始すべきものなり、善惡兩性の潜在する自己の愛は今や全然善に向つて進まんとするものにして而して之れが基礎を成すは情緒的生活なり。心情の始めて動くや良心の芽茲に萌し、始めて愛憎を感ずるや善惡の感念生ずと。此訓練は幼年時代の消極的訓練を以て自然的謙遜の性質を造くるによりて爲し得べく而して此の如き發展を爲すは訓言によるに非ずして人に接し師に倣び歴史を研究するに由りて達すべきなり。青年の教訓は言語を以て與ふべからず行動を以て示すべしとは余の反覆して已まざる處なり、經驗によりて教へ得べき處のものに如何なる事と雖も書籍によるべからず。是れルーソーの説く處

なれども人は親しく罪惡の結果を経験して其不利益なるを知り以て罪惡を犯すことなかるべしと云ふが如き危險なる説を爲したるに非ざるは明かなり。如何なる倫理上の智識と雖も他人の經驗或は自己の經驗によりて獲得し得られざるものなし。若し其の經驗にして危險なるものなる時は吾人は歴史より其の教訓をとるべきなり。其經驗にして何等の結果を生ぜざる時は青年をして其の經驗に執着して止まらしむるを可とす、かくてエミールは常に惡を避くるのみならず進んで善をなすべきを教へられ殊に貧しきもの及び壓制を受くるものに對して同情の涙を澀ぎ自己の權力を主張するに當りては嚴然として一步をも借さず、他人を擁護防衛するに當りては極めて敏捷なりと雖も又自ら平和の木鐸を以て任ずるものなり、平和を愛するの精神は其の教育の結果なり、之れと同時に又宗教々育をも受くるものにして十五才の折には彼は自ら靈魂を有することを知らず十八才に至りて未だ之れを教ゆべからず。如何と

なれば靈魂を知ること早きに失する時は遂に之れを知ることなくして終るの危険あればなり。」と此最後の一言中には氏が宗教々育に關する根本思想を見るべきなり。若し之れを知ること早きに失する時は兒童の得る處の宗教觀念が單に形成に過ぎずして實際の經驗上には何等の價值を有せざる口舌上の模擬たるに終るべし、

新 著 紹 介

フイリップポヴィツチ氏 經濟政策後篇上卷
氣賀勘重氏 解説

三 邊 金 藏

本書は其名の示すが如く氣賀教授が前に解説上梓せられたるフイリップポヴィツチ氏の經濟政策の續篇にして、第三篇交通政策第四篇内國商業政策の二篇より成る。即ち本書前半約四百頁は交通政策論にして、是を四部に分ち第一部に於ては交通

機關の一般に亘りて其効用並に發達史を叙説す蓋し總論なり。第二部は更に是を二章に分ち第一章を以て鐵道の組織及其政策を研究し、第二章を以て賃率及賃率政策の論究に充つ、就中第二章は本論中最も推賞を値する部分にして頁數正に百滔々數十萬言を重ねてさらぬだに興味多き此問題を層一層多味多趣たらしめたり。第三部は内地水路に關する研究にして、此事項に關するものは管理經營の方法より通航料に關する事まで細大となく之を叙述せり。最後に第四部海運政策の一文は正に第三篇の殿軍にして四面環海の國に生れたる者の一讀せざるを得ざる好文也。

次に本書の後半をなす内國商業政策論の内容を検するに第一部第二章に載せたる小賣商業政策は消費組合「デパートメントストア」行商其他と小賣商業との關係食料品警察不正競争鎮壓策などを各項目に分ち論せるものなるが就中「デパートメントストア」及消費組合と小賣商業との關係を論せるの項は「デパートメントストア」消費

組合の二つが所在に並び起りて小賣商業者を左右より挾撃せんとする状態に向ひつゝある我邦最近の情况サテハ激烈なる競争に伴うて動もすれば發生せんとする弊風例へば彼の不正樹事件などを念頭に浮べつゝ讀み行くときは先進文明の諸國が採用して或は失敗し或は成功せる秘策の跡なども宛ら眼前に活躍するが如くに思れて興味決して淺らざるなり。却説第二部は所謂銀行政策にして普通の銀行論にあらん程の事項は何にくれとなく何れも簡單明瞭に叙説しあるのみならず銀行と工業と題せる第五節の如き普通の銀行論に稀に見當る好文字もあり。次に第三部は即ち取引所論にして全體を九節に分ち取引所に關する事項は其性質たるを組織たると効用たると改良策たるとを問はず悉く之を論述せり。

内容既に右の如くなるに解説者の筆を行るや頗る流暢にして毫も滯滞の痕を止めざるは眞に先に時事新報記者が嘆稱せるが如し。評者は例令解説にして翻譯に非ざるにせよ邦文に引き直し難き外

國語而かも倍備なる獨逸書を斯くまでにコナシツケられたる教授の技倆に敬服せざるを得ざる者なり。否管に然るのみならず、評者は解説者が本書の序文に於て原著者は最新其初に採用せる叙述の順序を捨て、大體に於て舊來の順序に従ひたれば初學者の爲め普通の叙述法と本書の叙述法とを對照して以て經濟政策の一部分のみを窺はんとする者に便せんと一言して其對照表を掲げられたる用意周到なる親切心に多大の敬意を拂はんと欲する者なり。要之評者は有益にして興味に富み且つ親切なる書として是を世の經濟に志ある者の左右に推擧するを辭せざるなり。

前號(第三卷) 第四號) 目次

論 說

自然法に關する學說の變遷を論ず 田中萃一郎

英國の銀行準備金問題(其一) 堀江 歸一

最惠國條款の沿革 板倉 卓造

人生の意義及び價值(其四) 川合 貞一

講 演

イスパニア大艦隊破滅談 箕作 元八

雜 錄

教育史上の自然主義(其一) 石田 新太郎

奧匈國銀行の外國爲換政策 久山 寅一郎

遊戯の說(其二) 澤木 四方吉

新著紹介

カヅールの後半世(其三完) 高橋 誠一郎

幸田大鹽平八郎

河部 秀助

次號 豫告

論 說

人生の意義及び價值(其五) 川合 貞一

論題未定 氣賀 勘重

同 神戸 寅次郎

同 堀切 善兵衛

雜 錄

教育史上の自然主義(其三) 石田 新太郎

英國工場法の淵源(其二) 高橋 誠一郎

遊戯の說 澤木 四方吉